

■主役は俺だー2025年秋③

□神田智史 (かんだ・ともふみ) 北海道大4年 QB

栄光と苦杯を経験した司令塔が最終学年での巻き返しを決意している。北海道大が2年連続28回目の優勝を飾った2023年の北海道学生選手権。WRからコンバートされた2年生QB神田のパスが冴え渡った。不戦勝を除く4試合でリーグトップの1104ヤードを投げ、14TDを量産して連覇を引き寄せた。しかし、翌2024年は春季オープン戦の東北大戦で左肩の鎖骨を骨折。秋季リーグには復帰できたものの先発を山本康介(当時4年)に譲り、133ヤード、1TDどまり。チームも3位に沈む屈辱を味わった。「悔しかった。自分をアピールできなかった」と振り返り、「今年の秋は勝つことが第一」との言葉に力を込める。



東京・麻布中でフラッグフットボール部のQB、麻布高アメフト部ではWRを務めた。高校最後の大会が新型コロナ禍で中止になり、不完全燃焼で北海道大へ。167センチ、71キロと小柄ながら捕球力と脚力を見込まれ、1年生からビッググリーンのWRユニットに抜擢された。そして2年生のシーズン。エースレシーバーの宮崎大地(当時4年)の強い推薦でQBに配置転換され、先発QBの山本が秋季リーグ初戦の室蘭工業大戦で負傷退場すると、早速出番が巡ってきた。「短いパスを正確に」「思い切り良く」を信条に繰り出すパスが小気味よく決まり、WR陣の好走もありTD量産につながった。圧巻は優勝決定戦となった最終の北海学園大戦。WR宮崎の3TDなど5TDパスで

33-7の快勝に導いた。宮崎に大会MVPをプレゼントする「恩返し」もできた。

2年ぶりの栄冠を目指す今季。オフェンスリーダーとして責任も増した。「WRを引っ張っていくようなパスを投げたい」と決心し、OL山田海矢、坂本孝福、森川太陽、WR川村虎鉄と5人の4年生で攻撃チームの躍動を狙う。春のオープン戦では、50-0と大勝した室蘭工業大戦でTE伊勢崎仙太郎（2年）へ36ヤードTDパスを決めると、優勝争いのライバルの北海学園大戦でもTE伊勢崎へ1ヤード弾を投げ込み、21-12の勝利を演出した。7-18で惜敗した東北大戦では、レシーバー陣との息が合わずに2インターセプトを喫したが、「パスは悪くない」と前を向く。「まずは秋季リーグで北海学園大に勝つこと。自分たちのプレーが出来れば」と自信を見せた。

〈プロフィール〉

2002年12月5日、神奈川・川崎生まれ。経済学部経済学科4年。2023年の北海道学生選手権でベストイレブンQBに選ばれた。